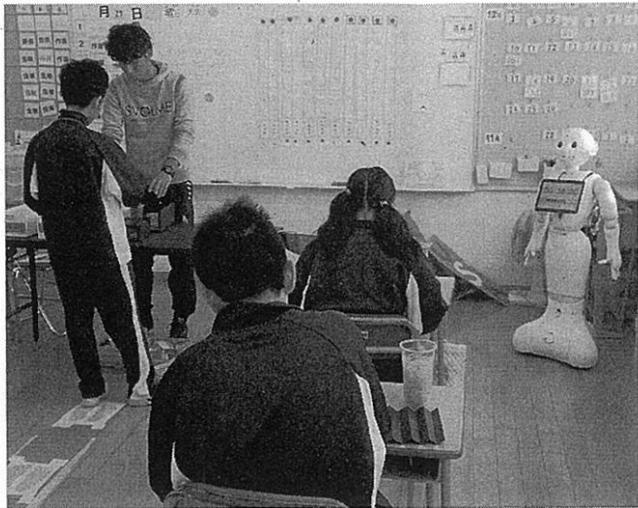


「機械以上、人間未満」

ESDの視点に立った未来型ICT活用

テクノロジーを活用することで、コミュニケーション能力を伸ばし、社会参加の質を向上させたい」。愛知県立みらい特別支援学校（志賀則彌校長、児童・生徒305人）は、「公財 バナソニック教育財団」特別研究指定校に選ばれ、人型ロボット「Pepper（ペッパー）」とタブレット端末を活用したコミュニケーション能力の育成や社会参加の質的向上に取り組んでいる。さらなるテクノロジーの進化を見据え、学びは今後どうあるべきか。試行錯誤を重ねながら教職員が一丸となり、新たなモデルの提示に臨む。

(公財)バナソニック教育財団特別研究指定校 愛知県立みあい特別支援学校



生徒の作業学習を応援するかのよう

同校は2009年4月開校という新しい学校だ。当初の全児童生徒数は1,825人だったが、10年目の18年度は300人を超えて、教職員数138人がの大規模校となつた。

教室不足のためノレイルームなどに壁を設けて対応したが、校舎は今も十分に開放的で明るい。教職員の連携も密に行われているといふ。

特色ある取り組みについて、ESDの視点に立って共生社会の実現を目指す学習活動の推進がある。14年9月には「ユネスコスクール」に加盟、16年9月に「サステイナブルスクール」に認定された。柱は「自分の力を最大限に活かす」というものだ。

A black and white photograph showing a person with short dark hair, wearing a white t-shirt with a small logo on the chest, sitting at a wooden desk. The person is looking towards the camera with a slight smile and is holding a tablet device. To the left of the person, a large, white, humanoid robot with a boxy head and a segmented body stands on a dark floor. The background features a dark shelving unit with various items on it, including what looks like a printer or scanner.

ペッパーを通じて他者との関わりを深める

高等部の集会は総默（かんもく）で人前に立つことができない女子。生徒がペーパーを代理とし、柱の陰から操作して発表を行なう。他の生徒を前にしながら現場実験前の意図込みを伝えることができた。さうして学習發表会で太鼓をたたくなら自慢をつけた様子があつた。校長は「本校は常に専門性の向上を求める生徒たち挑戦を続ける」と前を見据え、「『未来型ICT活用』と題した実践を地域の小・中学校に発信し、地域の特別支援教育力を底上げするセンターの役割を果たしていく」と展望を力強く語った。

志賀則彦校長（右）と中川恵乃久中学部主事

教員らは自由な発想で多彩なアイデアを出し、協力し合いながら表現している。活用の場面は日常生活の指導から自立活動、生活単元学習、作業学習まで幅広い。

中でも小・中学部が進めてきた個別学習は自覚正しい成果を見せていく。アプリ「バッパー」で「力」を用い、「子供たちがそれぞれ自己紹介」と「きと併せてアロングラム」(P.パンツー)が書きの愛

小・中・高等部合同でのアプローチラミング学習で、も・小・中学部の子供たちは自分の趣味や好きな食べ物、行きたい場所などを堂々と表現し、拍手や称赞を受け「ほんたらやるね」と満面の笑顔を見せていました。